

やまびこ

「いのちについて考える日」6月12日(金)

6月12日は「いのちについて考える日」でした。8年前に市内中学校で発生した痛ましい事件を忘れず、命の大切さを児童に伝えていく日です。

4時間目に全校児童が体育館に集まり、校長先生からこの日の意義や命の大切さの話を聞きました。続いて「みかちゃんのひだりて」という本を読み聞かせてもらいました。下はその粗筋です。



「ミカちゃんのひだりて」作・絵 中川洋典

ユリちゃんは、同じクラスにいるミカちゃんと隣の席になります。それまではあまりかわってこなかったミカちゃんが隣の席になったことで、ユリちゃんには今までとは違う気持ちが生まれてきます。ミカちゃんのことを放っておけないユリちゃん。それだけでなく、自分がミカちゃんのことを好きになっていることに気がきます。

放課後、発表会の劇の準備で全員が残っているとき、同じクラスのたつし君が、大声でミカちゃんを怒鳴ります。クラスのみんなもユリちゃんも、誰も何も動けませんでした。そして、その次の日にミカちゃんが腹痛で学校を休んでしまいます。ユリちゃんは、前日のことを思い、ミカちゃんに会いたくて謝りたくて、あわててミカちゃんの家に行き、謝ることができました。

驚いたのはその次の日。ミカちゃんがクラスのみんなに、学芸会で使うステージに吊るす絵を描かせてほしい、と言ったのです。ユリちゃんは今度は「ミカちゃんならできる」とみんなに言えました。そして、放課後みんな準備をします。もちろんミカちゃんも。発表会は大成功。ミカちゃんからは「ありがとう、ユリちゃん」と言ってもらいます。

読み終えて、校長先生は次のように児童に語り掛けました。

ミカちゃんは、何か声を掛けても「ほや〜っ」と笑う、クラスのみんなは「変わっている」と言う…。大勢のクラスならば必ず一人ぐらいいはいな子ですね。いつも一人だけ違うことをしている。そんな子に対して、クラスの子供たちはどうなっていくのでしょうか。何となく「あいつ、変わっている。」と言うだけで、深く関わらなかつたり無視をしたり…。でも、そのことを誰も何とも思っていなかったのだと思います。

劇の準備でたつし君が怒鳴ったとき、どの子も「たつし君の言い分も分かる。」と思ったことでしょう。しかし、少なくともユリちゃんだけは、「でも、みんなの前でそんな言い方をしなくても…」と思ったから、何も言ってあげられなかったことを謝ろうと思ったんですね。その後悔と決意があったから、次の日にみんなの前で「ミカちゃんなら、できる!」と言えたのだと思います。そんなユリちゃんの心の揺れを感じ取ってほしいと思います。

児童はじっくりと聞き入っていました。

